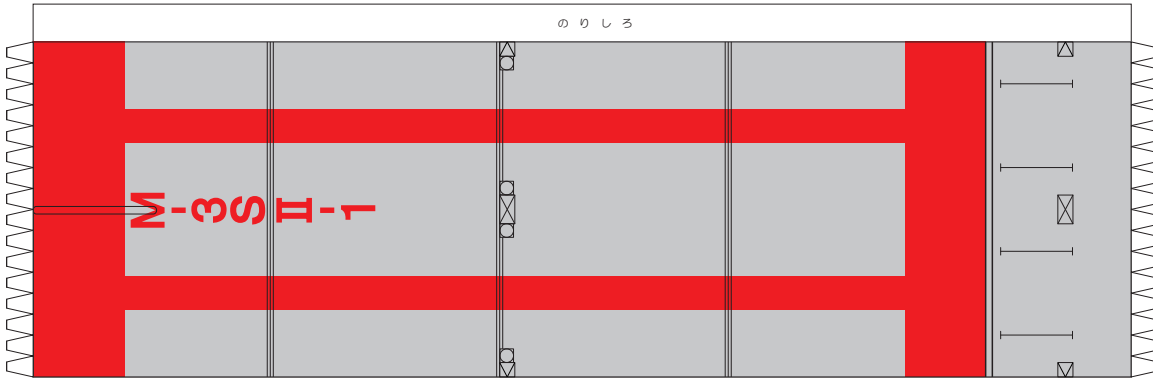


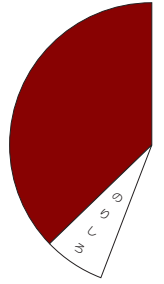
M-3SIIペーパークラフト scale 1/100

(C) FUKUDA Planning 2005 Ver.1.0.0

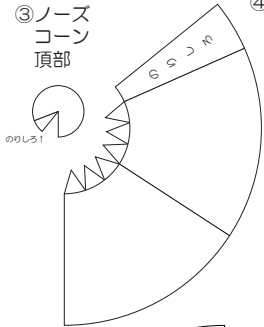
①第1段本体



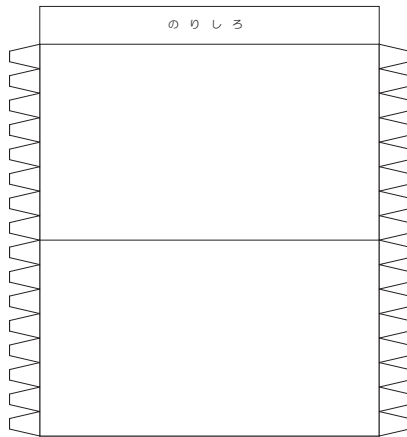
②第1段ノズル



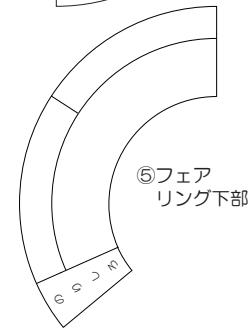
③ノーズコーン 頂部



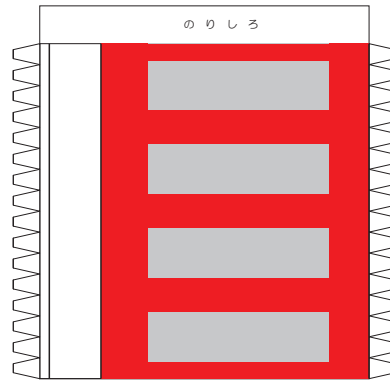
④ノーズコーン



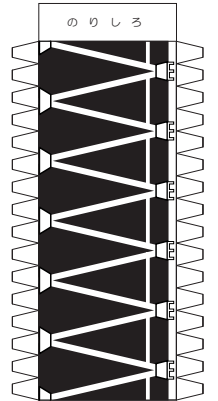
⑥フェアリング



⑦第2段本体



⑧第1段-第2段継ぎ手

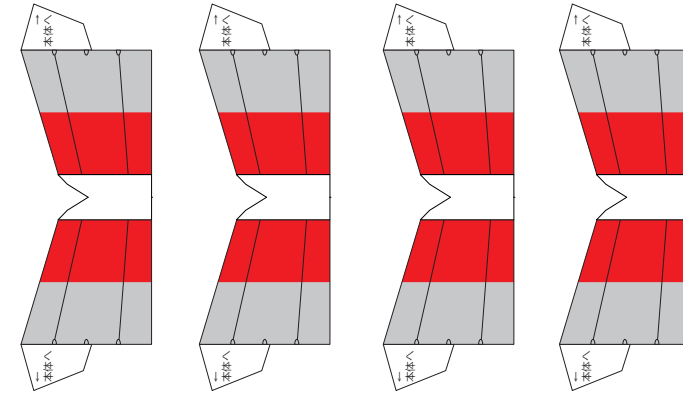


⑪尾翼

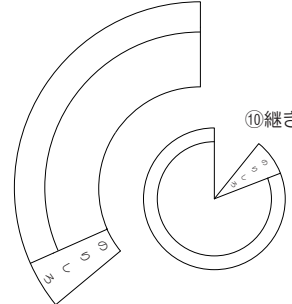
⑪尾翼

⑪尾翼

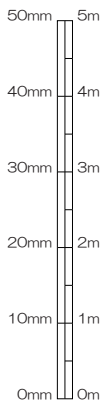
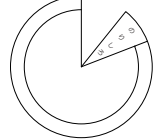
⑪尾翼



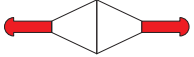
⑨継ぎ手上部



⑩継ぎ手下部



⑫スパイクノーズ



⑫スパイクノーズ



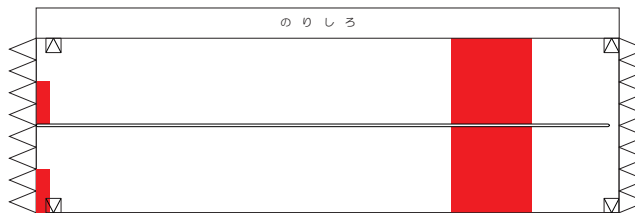
⑬ノーズコーン



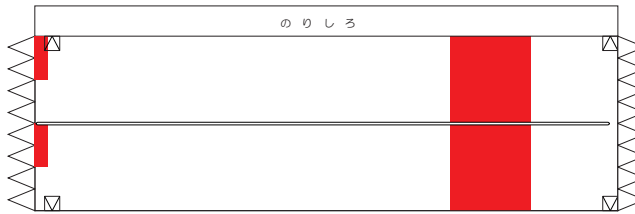
⑬ノーズコーン



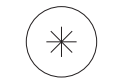
⑭ブースター本体



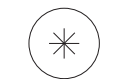
⑭ブースター本体



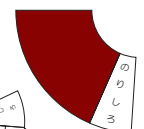
⑯ブースター 底部



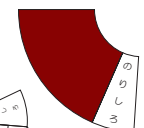
⑯ブースター 底部



⑰ノズル



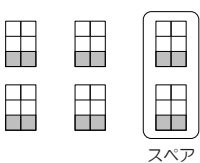
⑰ノズル



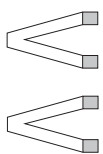
⑮ブースター 下部



⑩ブースター支持パーツ

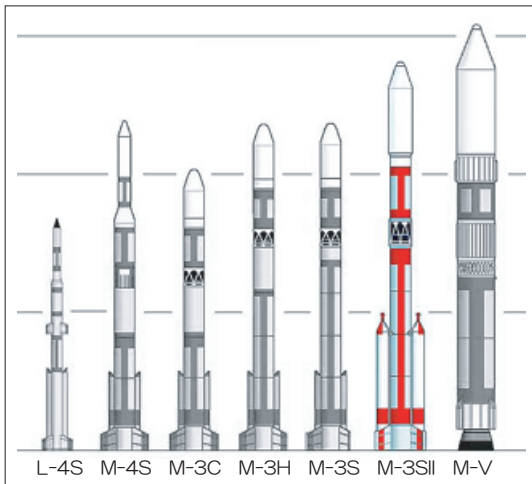


⑱支持ブーム



M-3SII ペーパークラフト

M-3SIIは、現在のJAXA宇宙科学研究本部の前身に当たる、東大宇宙航空研究所（のち文部省宇宙科学研究所）の開発したミューロケットの第4世代です。1986年に76年ぶりに近日点を通じたハレー彗星に探査機を送り込むために開発されました。第1号機は1985年1月に打ち上げられ、ハレー探査機「さきがけ」を無事に日本初の太陽周回軌道に乗せました。その後、ISASの標準機的存在として1995年までに8機が打ち上げられ、7機が衛星・探査機の軌道投入に成功しています。



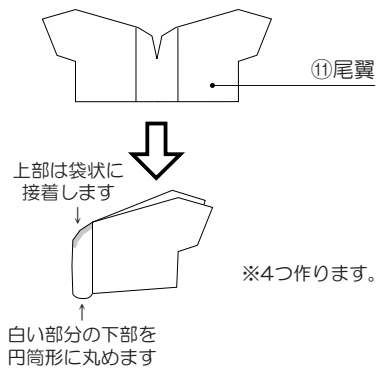
宇宙航空研究開発機構（JAXA）提供の図を一部改変

	M-3SII	
全長	27.8m	
直径	1.41m	
全重量	61t	
打上げ能力	770kg	
打上げた探査機 人工衛星	さきがけ すいせい ぎんが あけぼの	ひてん ようこう あすか EXPRESS※
運用年	1985~1995	

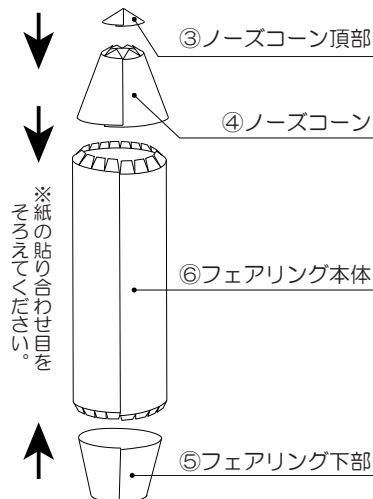
※M-3II-8のEXPRESSは軌道投入失敗（カプセルは後に回収）
JAXAホームページおよび「スペース・ガイド2003」（丸善）掲載のデータより作成

組立説明図

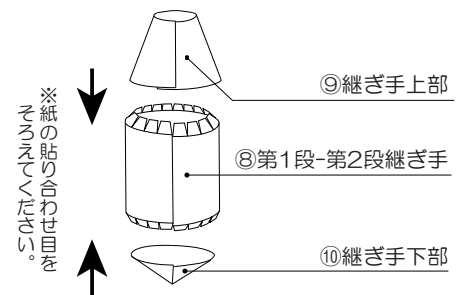
1. 尾翼の組み立て



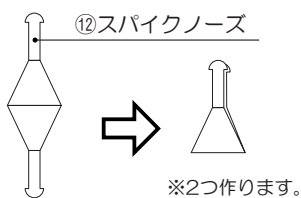
2. フェアリングの組み立て



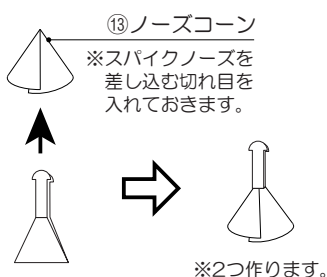
3. 第1段-第2段継ぎ手の組み立て



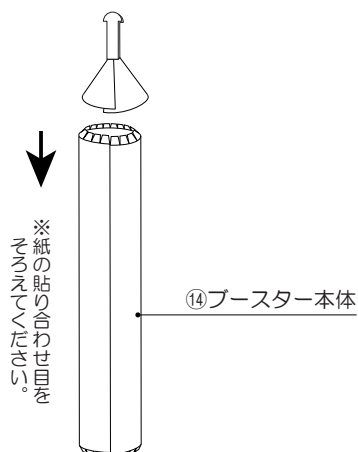
4. スパイクノーズの組み立て(1)



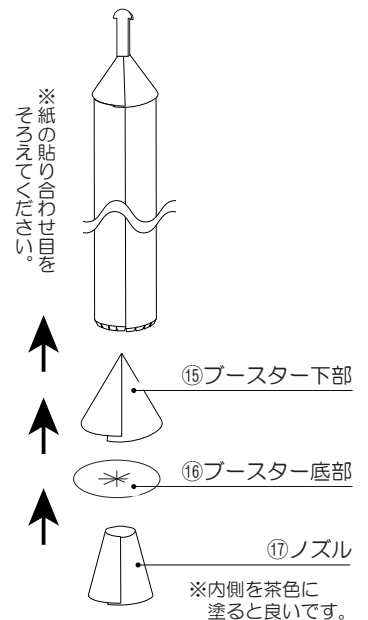
5. スパイクノーズの組み立て(2)



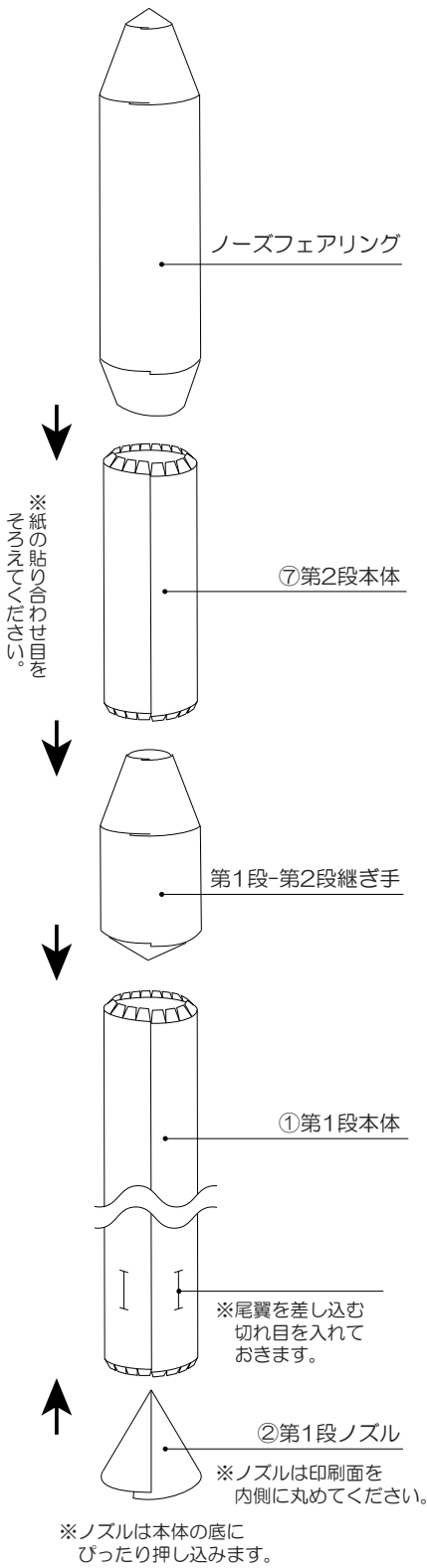
6. ブースターの組み立て(1)



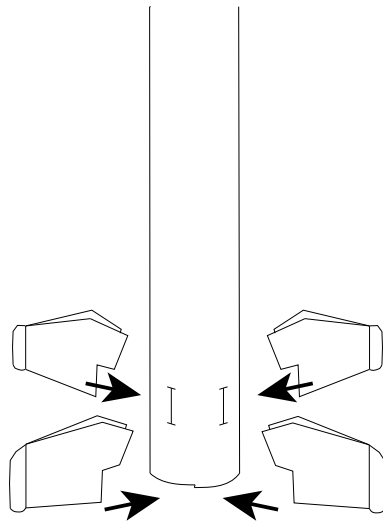
7. ブースターの組み立て(2)



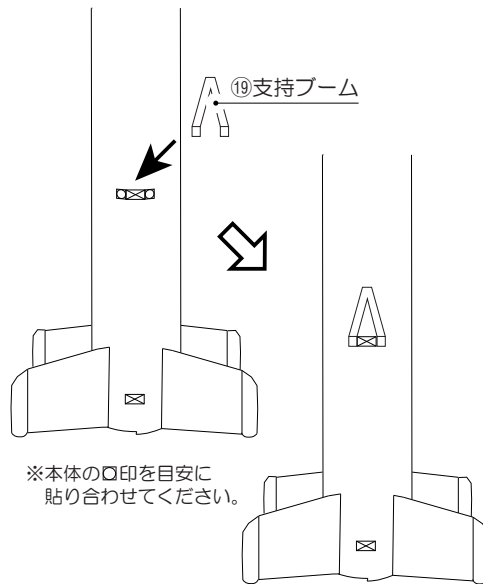
8. ロケット本体の組み立て



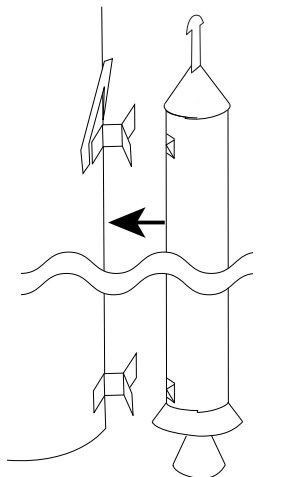
9. 尾翼の取り付け



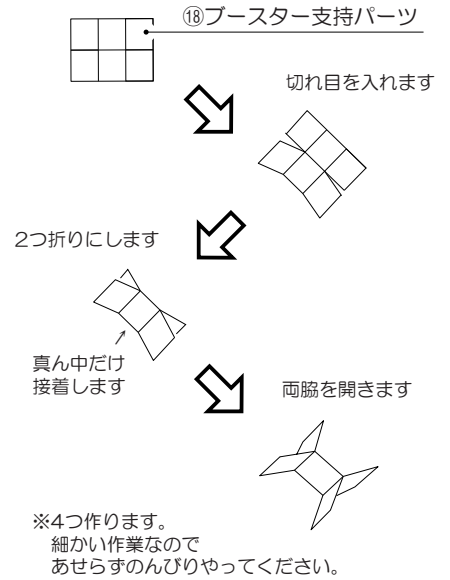
11. 支持ブームの取り付け



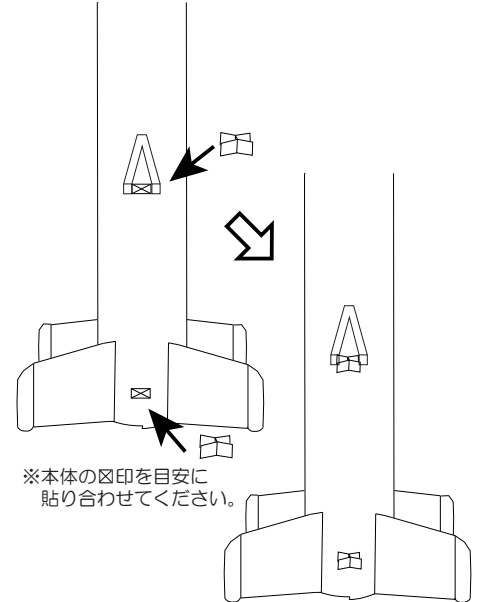
13. ブースターの取り付け(1)



10. ブースター支持パーツの組み立て



12. ブースター支持パーツの取り付け



14. ブースターの取り付け(2)

